

荒尾経済倶楽部

# 卓話「令和7年度荒尾市のまちづくり」

令和7年4月17日 荒尾市長 浅田 敏彦



あらいお海陽スマートタウン  
完成予想図



令和7年2月5日から

# 市政3期目がスタート

市民の皆様の幸せを最大化できるように  
新たな4年間 全力で取り組んでまいります

# 市政運営の基本方針 （市政1期目から変わらぬ考え）

- 市民とのコミュニケーションを大切に ➡ 広報と広聴の充実
- 市政運営の安定化 ➡ 市民の代表“市議会”への説明責任
- 広域連携や産学官連携 ➡ 市民協働や民間連携で行政経営を改革
- 市役所の活性化と職員の人材育成 ➡ 人づくりが基本
- 行政効率化とスピード感ある行政 ➡ B/Cを意識、迅速な判断と行動  
（費用対効果）

**理想だけでなく 実行することが重要！**

## 市政1期目の主な動き(H29.2～)

- ・H29.9月 荒尾市民病院の現地建替えを決定
- ・H29.10月 小学校の給食費無償化を開始
- ・R1.8月 荒尾干潟水鳥・湿地センター開館・運営開始
- ・R1.11月 子ども科学館をリニューアルオープン
- ・R2.7月 関川の氾濫等による豪雨災害への対応
- ・R2.10月 あらお健康手帳がグッドデザイン賞を受賞
- ・R2.10月 「おもやいたクシー」の運行開始



## 市政2期目の主な動き(R3.2～)

- ・R4.4月 市立図書館をシティモールに移転・開館
- ・R4.8月 荒尾市・長洲町学校給食センターが完成
- ・R5.7月 炭鉱電車2両を万田坑で保存・公開
- ・R5.10月 市立有明医療センター開院
- ・R5.10月 子ども医療費無償化を18歳までに拡大
- ・R6.2月 有明海沿岸道路「荒尾道路」中心杭打ち式
- ・R6.10月 AKB48グループ総監督の倉野尾成美さんが「あらお観光大使」に就任



## 3期目に向けた「10の決意」

- 決意 1 荒尾駅のバリアフリー化と駅周辺の賑わい創出
- 決意 2 あらお海陽スマートタウンでの中心拠点づくり
- 決意 3 「オールあらお」で子育てしたくなるまちへ
- 決意 4 誰もが学校に行きたくなる教育の推進
- 決意 5 健康長寿で幸せ実感！
- 決意 6 雇用の創出と地域経済の活性化
- 決意 7 有明海沿岸地域ネットワークの推進
- 決意 8 みんなで暮らしの安全・安心と地域の元気づくり
- 決意 9 地球環境にやさしいまちづくり
- 決意10 市民体育館の建替え検討に着手

## 荒尾市の特性

- ・福岡、熊本都市圏の中間
- ・まちがコンパクトで暮らしやすい
- ・都市機能と自然のバランスが良い
- ・災害が少ない
- ・観光資源が豊富
- ・地域活動が盛ん

## 荒尾市の課題

- ・少子化の急速な進行と、若い女性の転出による人口減少
- ・雇用の確保と地域経済の回復
- ・超高齢化社会と社会保障費の増大
- ・災害への備え
- ・財政基盤の脆弱性

## まちづくりの目標と基本戦略（市政3期目）

目 標： **あらお新時代！『暮らしたいまち 日本一』へ躍進**

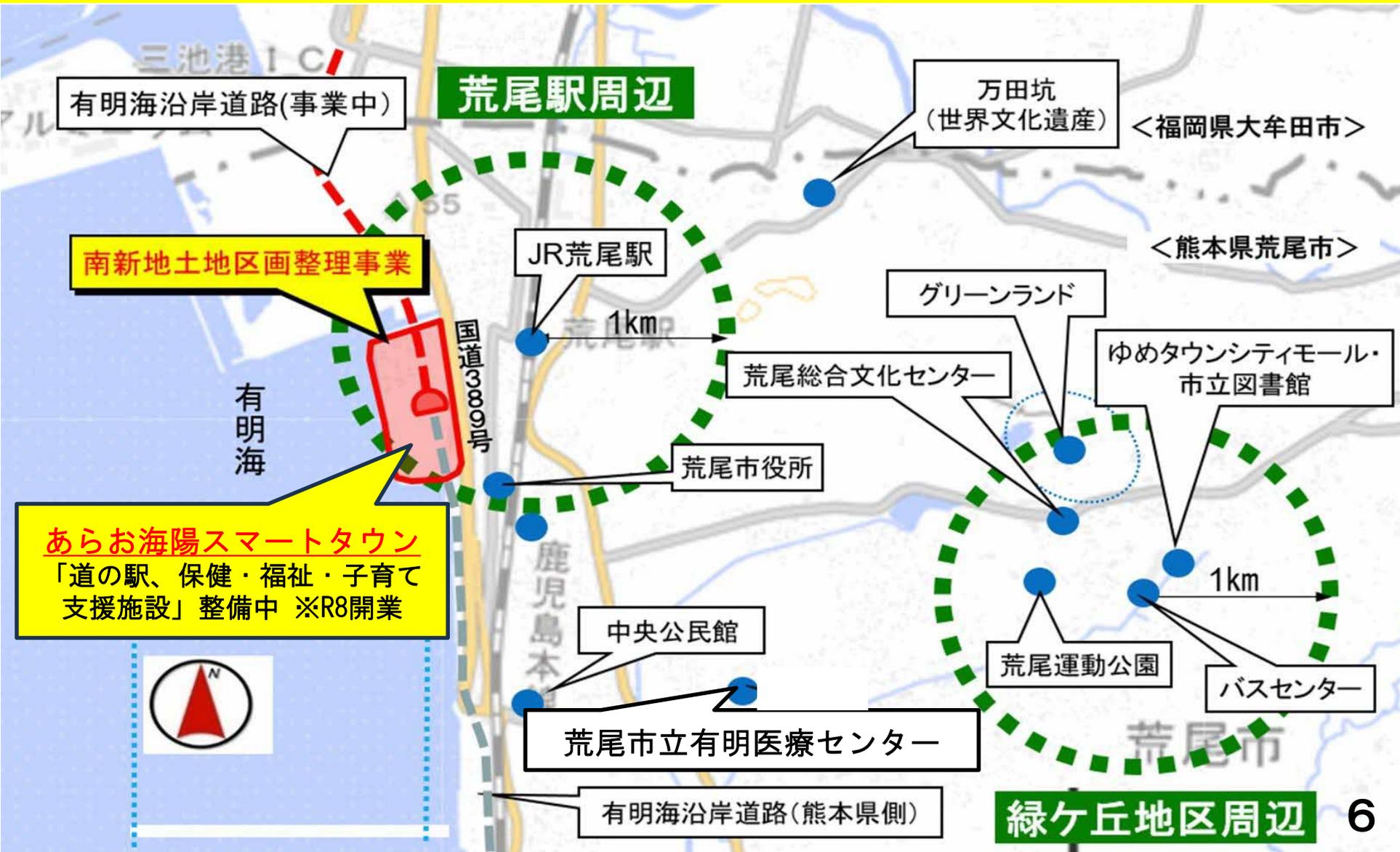
基本戦略： ① 「荒尾駅周辺地区」と「緑ヶ丘地区」を本市の中心拠点とし、市内全域と公共交通でネットワークを形成

② 全世代型のデジタル社会で、より便利で、快適に暮らせる「スマートシティ」を実現

③ 地球環境にやさしい「ゼロカーボンシティ」を推進

➡ これらの成果によって、教育、子育て、医療、介護、福祉、防災など、生活の足元を充実！

# 【基本戦略1】「荒尾駅周辺地区」と「緑ヶ丘地区」を本市の中心拠点とし、市内全域と公共交通でネットワークを形成



# 【基本戦略1】「荒尾駅周辺地区」と「緑ヶ丘地区」を本市の中心拠点とし、市内全域と公共交通でネットワークを形成

## (1)「荒尾駅周辺地区」のまちづくり ①荒尾駅と駅前の賑わい創出

市民の皆さんと一緒に「荒尾駅周辺地区のまちづくり」について考えるため、令和3年度から令和4年度にかけてワークショップを開催。

### ■荒尾駅改修に向けた基本計画の策定

駅舎は昭和19年築。令和6年度末に策定した「荒尾駅周辺地区バリアフリー基本構想」等を踏まえ、JR九州と協議を進めながら、令和7年度中にまとめる見込み。

＜基本計画の主な内容＞

- ・エレベーター設置を含むバリアフリー化
- ・駅の東西を結ぶ通路の整備
- ・駅前広場の整備

### ■コミュニティスペース「あらおりビング」の活用

- ・JR九州、(一社)のあそびlaboと連携し、荒尾駅舎の一部をリノベーションして、令和6年11月にコミュニティスペース「あらおりビング」をオープン。
- ・駅の待ち時間、勉強やくつろぎの場として、誰でも利用可能。スペース内には、カフェ「&LOCALSインローカル1号店」がオープン。
- ・「あらおりビング」を活用しながら、今後、駅舎に必要な機能を検証(待合機能、物販、ワークスペース等)。



# 【基本戦略1】「荒尾駅周辺地区」と「緑ヶ丘地区」を本市の中心拠点とし、市内全域と公共交通でネットワークを形成

## (1)「荒尾駅周辺地区」のまちづくり ②あらお海陽スマートタウン

- ・競馬場跡地等35haで、H28年度より南新地土地区画整理事業を実施中。令和7年度終了予定。
- ・コンセプト：**有明海の夕日が照らすウェルネスタウンあらお**
- ・居住ゾーン → 戸建住宅や集合住宅で、1,000人の居住を計画。
- ・市 → 「道の駅と保健・福祉・子育て支援施設」(ウェルネス拠点施設)をPFIで整備。R6.8月着工。
- ・民間 → 戸建住宅・集合住宅、生活利便施設、温浴施設、宿泊施設、運動施設などを誘致予定。
- ・有明海沿岸道路「**三池港連絡路**」がR4.1月着工。市屋ガードまでの「**荒尾道路**」も事業着手。
- ・エリアマネジメントの導入 → 市や集客施設が資金を拠出し、マネジメント会社を設立。エリアの土地管理やイベント・プロモーションを共同実施し、**統一感のある「一つのまち」**を目指す。



### <タウン内の動き>

- ・R6.3月、アパート6棟103室が完成
- ・R7.2月、メガセンターライアル荒尾店がオープン
- ・障がいのある人もない人も一緒に遊べる**インクルーシブ公園**を整備中(R8供用開始予定)
- ・その他の街区も準備でき次第公募を順次開始しており、**既に宿泊施設が1区画を落札し進出の見込み。**

### ■経済波及効果シミュレーション

【来訪者】約620万人(年) 【就業誘発効果】約6,000人  
【経済波及効果】約480億円 【税収効果】約8.5億円(年)

# 「あらか海陽スマートタウン」周辺の状況と施設の立地状況

「めざまし」暮らしたいまち  
**日本一!**  
 ARAO



## 新しいまちづくりへの挑戦!



### 新しいまちに生まれ変わります!

市民の生活を今より便利で、快適に暮らしやすくするため、緑ヶ丘地区と荒尾駅周辺地区に都市機能を集約するコンパクトなまちづくりを進めている。荒尾競馬場跡地の南新地土地区画整理事業も順調に進んでおり、今後は荒尾駅周辺の整備を行っていく予定。



令和元年



現在の様子

### 荒尾駅周辺地区の活性化

市民の皆さんとのワークショップでの意見から作った「まちづくりの方向性のイメージ図(右図)」をもとに、あらか海陽スマートタウンと相互に連携し賑わいをうみ、癒しが得られ、市民や来訪者から愛されるまちを目指していく。

みんなで店舗を作り上げよう!



荒尾駅前の空き店舗をDIYでリノベーションし、賑わいづくりに取り組んでいる。



整備中の有明海沿岸道路の橋脚



・荒尾南ICまで国直轄事業化決定  
 ・長洲方面も調査着手

荒尾駅の改修検討  
 バリアフリーを含む駅改修を検討。



JR荒尾駅

空き店舗の活用  
 荒尾駅前の旧商店街を「立ち寄りたくなる空間」にするため、空き店舗のリノベーション事業を実施。



リノベーション後の様子

駅前道路の改修  
 荒尾駅とあらか海陽スマートタウンをつなぐ駅前道路を改修。

再整備を行う各拠点から  
 既成市街地へ賑わいを波及させる

宿泊施設  
 進出予定

メガセンタートライアル  
 R7年2月オープン

戸建て住宅

国道399号

生活利便施設誘致

荒尾南ICまで延伸予定

荒尾北IC

集合住宅6棟  
 R6年3月完成

BAOO荒尾  
 R4年6月オープン

道の駅・保健福祉子育て支援施設  
 R8年6月オープン予定

温泉宿泊施設などを誘致

温浴・アウトドア施設・芝生広場などを誘致

集合住宅

公園・緑地

有明海

道の駅 大屋根広場 保健・福祉・子育て支援施設



これからも住み良い街となるよう取り組んでいきます!

# PFI事業者提案

## 「道の駅、保健・福祉・子育て支援施設」

のイメージパース 令和8年6月開業予定

※保・福・子施設の行政機能は4月開始

(市社会福祉協議会も同居し、連携強化・相談体制の一元化)

↓大屋根広場



有明海の  
夕陽



↑ 保健・福祉・子育て支援施設

子どもの室内遊び場

(面積 約500㎡、高さ 約7.5m ※吹き抜け)

↑道の駅(手前:大階段)

←2階:オープンテラス



(道の駅内)

← 1階:農産物直売所

↓ 2階:飲食店



# 【基本戦略1】「荒尾駅周辺地区」と「緑ヶ丘地区」を本市の中心拠点とし、市内全域と公共交通でネットワークを形成

## (2)「緑ヶ丘地区」拠点の強化

### ■市立図書館をシティモールに整備（R4.4月開館）

- ・シティモール（第三セクター）、紀伊國屋書店と連携し、市立図書館をモール2階に移転整備。2階の1,000坪に、書店、カフェと一体なった、滞在型の図書館。
- ・コンセプトは、「学びをつたえる、交流活動とつながる、未来につづく『図書館』」
- ・電子書籍やデジタルコンテンツが充実した、デジタルライブラリーが特徴の未来型図書館。
- ・来館者数は開館から3年間で **74.2万人**を達成。
- ・有名作家の講演会など文化事業も充実。図書館を核とした「本のまち・文化のまち」へ
- ・読書スペースを拡充

### ■シティモールのリニューアル

- ・図書館開館に合わせて、シティモールが全面リニューアルし、R4.9月にグランドオープン。
- ・【リニューアル効果】R3に比べR5は、客数：250万人 → 350万人（**40%増**）、売上48.4億円 → 55.5億円（**15%増**）、雇用300人 → 600人（**倍増**、7割は荒尾市在住）
- ・R7.3月には、全国で最も有名なあのドーナツ店もオープン
- ・今後、市主催のイベント等もできる限りシティモールで開催することで相乗効果が見込める。





# 【基本戦略2】全世代型のデジタル社会で、より便利で、快適に暮らせる「スマートシティ」を実現

**スマートシティ**とは？ ➡ ICT活用で地域課題を解決し、より便利で快適な暮らしを実現  
【テーマ】 **ウェルビーイング**（心身ともに健康で幸せな状態）を享受できる快適未来都市  
【経緯】 令和元年5月、国土交通省スマートシティモデル事業「重点事業化促進プロジェクト」に採択。同年8月、大学や企業と「**あらおスマートシティ推進協議会**」を設立。  
公共交通はじめ各分野での実証実験を重ね、令和2年7月に国土交通省スマートシティモデル事業「先行モデルプロジェクト」に昇格（**九州で唯一**）。

## ＜主なテーマ・施策＞

### ①ヘルスケアの充実

- ・AIを活用して、現在の健診結果から将来の健康状態を予測。  
また、少量の血液から将来の疾病確率を予測する「**フォーネスビジュアル検査**」などにより、保健指導等で未病対策を重点化。
- ・あらお健康手帳のデジタル化（スマホアプリへの移行）

②**タブレット端末を活用した児童見守りサービス 日本初**  
児童生徒一人一台配布している、**どこでもつながるLTE方式のタブレット端末**を活用。昨年度、桜山小・緑ヶ丘小の2校で先行して実装を行い、令和7年度中には全小学校で導入計画。

### ③デジタルデバйд対策

情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差を解消するため、**携帯キャリアや高校・高校生と連携して**、主に高齢者向けのスマホ教室を開催。

※その他、「おもやいタクシー」などもスマートシティの取組の一環でもある。



# 【基本戦略3】地球環境にやさしい「ゼロカーボンシティ」を推進

**ゼロカーボンシティ**とは？ ⇒ CO<sub>2</sub>などの温室効果ガスの排出量から吸収・除去した量を差し引き「**実質ゼロ**」とする社会の実現

【テーマ】「石炭のまち」から「ゼロカーボンシティ」へ

【経緯】平成29年に三井物産(株)等と「地域エネルギーの有効活用等を中心としたまちづくに関する連携協定」を締結し、「**エネルギーの地産地消**」を推進。令和2年7月豪雨災害を受けて、2050年までに「実質ゼロ」を目指す「**ゼロカーボンシティ**」を令和3年3月に宣言。令和4年3月に「**荒尾市地球温暖化対策実行計画**」を策定し、脱炭素の取組を推進。

## ＜主なテーマ・施策＞

### ①再生可能エネルギー導入の推進

- ・荒尾総合文化センター屋上に太陽光発電ソーラーと蓄電池を設置
- ・新市民病院がエネルギー収支ゼロの**ZEB認証**を取得(R3)
- ・有明エナジー(株)とのPPA方式(電力販売契約)による市役所はじめ公共施設への太陽光発電設備設置及び電力供給 ※市は**初期投資ゼロ**
- ・国の補助制度を活用し、家庭へのソーラーと蓄電池の設置に加え、事業所の高効率のエアコンやLED照明導入、カーポートへのソーラー設置を補助(R6～R8)



### ②循環型社会の形成・ごみの減量化

- ・プラスチックごみのリサイクル開始(R6～)
- ・生ごみ処理機の設置補助

### ③大牟田・荒尾清掃施設組合

- ・新ごみ処理施設整備中(R10.7月供用開始予定)
- ⇒焼却熱を利用して発電し、施設全体の電力も賄う



# 令和7年度の主な取り組み

先述の3つの基本戦略を踏まえ、荒尾市総合計画の重点戦略「あらお未来プロジェクト」に掲げる5つの柱に基づき、令和7年度当初予算を編成。

**一般会計当初予算額 274.7億円(前年度比+11.1億円、+4.2%)**

※物価高騰や人件費増加などの影響が大きい。

## あらお未来プロジェクト

1. 切れ目のない充実した子育て環境をつくる
2. 誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる
3. 雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる
4. あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる
5. 先進的で持続可能なまちをつくる

# 重点戦略1. 切れ目のない充実した子育て環境をつくる

## (1)「オールあらか」で子育てしたくなるまちへ

※ライフステージに応じた少子化対策

凡例 ●:新規 ●:拡充 ●:継続

**乳幼児期～学生期** → 子どもの安心、地域への愛着醸成

- タブレット端末活用の「児童見守りサービス」を全小学校に導入(R6は2校で先行して実施)
- 放課後児童クラブ受入体制の強化(R6:中央小・シオン園保育所内の新設・定員拡充により、**保育園や学童保育の待機児童が解消できている。**)

**若年期** → 結婚や子育てに関する不安感の軽減

- 気軽に出会えるコミュニティの場づくり(R6～)
- 市外転出の若者にSNSを通じて市の情報などを幅広く発信し、つながりを持ち、Uターンを促進

**妊娠・出産・子育て期** → まち全体で子育てを応援し、ゆとりをもって子育てできる環境づくり

- 妊産婦・小学6年生までの子育て世帯を対象にした、24時間365日いつでも医師に相談可能な「**オンライン医療相談アプリ**」の導入(R7～)
- **熊本連携中枢都市圏加入**により、本市在住で熊本市内勤務世帯が熊本市内の病児・病後児保育施設を利用可能に(R7～)
- 第2子以降の保育料無償化(R6～)
- 特定不妊治療費の助成(R6～)
- 子ども医療費を18歳まで無償化(R5～)
- 子ども食堂への運営支援(R5～)
- 小学校給食費の無償化(H29～) **※近隣自治体に先駆けて実施**



# 重点戦略1. 切れ目のない充実した子育て環境をつくる

## (2) 教育環境の充実

凡例 ●:新規 ●:拡充 ●:継続

### 学校環境 ※ハード・ソフト両面を充実

- 府本小で市内のどこからでも通学できる「**小規模特認校**」の開始(R7)
- どこでもつながるLTE方式タブレット端末約4,700台(児童生徒に1人1台)の更新・配布
- 小中学校トイレの洋式化・乾式化等改修(R6~)
- 学校運営方針「**オンリーワン**」の学校づくり
- 子どもたちの自主性を尊重した、魅力ある小学校修学旅行サポート(R5~)
- 中学生全員を対象とする英語検定費用の助成(H30~)
- 不登校対策として、小岱教室に加え、全中学校と桜山小学校にハートフルルームを設置



### 国際交流・地域活動等

- シンガポールに中学生を派遣し、現地の同世代との相互交流(R5~)
- 岱志高校と有明高校の「**総合的な探求の時間**」を活用した政策提言と実践(R6~)
- 休日の中学校部活動の地域移行に向け、部活動総括コーディネーターを配置(R5~)



# 重点戦略2. 誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる

## (1) 健康長寿のまちづくり

凡例 ●:新規 ●:拡充 ●:継続

- 本市と大牟田市の市民が、両市の受託医療機関で子宮頸がん・乳がん検診や国民健康保険の特定健診を受診できる体制の強化(R6~)
- 熊本大学大学院生命科学研究部及び荒尾市医師会等との6者連携協定による「**健康寿命の延伸**」などに関する取組の推進(R5~)
- 市立有明医療センターと民間産婦人科の連携による「**周産期医療体制**」の強化(R5~)
- 介護予防運動の推進 ※介護保険料基準月額が県内で2番目に低額！

## (2) 福祉の充実

- 障がい者やその家族向けの基幹相談支援センターを有明圏域2市4町共同で設置(R7)
- 予防接種法上で定期接種となった帯状疱疹予防ワクチンの接種開始(R7)

## (3) 協働のまちづくり

- 「**花のみちプロジェクト事業**」で街を花でいっぱい！
- 小中学生を対象にした高校生による「**岱志塾**」(理科実験教室等)と「**有明塾**」(料理教室等)
- **半導体サーキットデザイン教育センター**を開設した有明高専の学生による小学校出前講座



# 重点戦略3. 雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる

## (1) 企業誘致

凡例 ●:新規 ●:拡充 ●:継続

●「あらお海陽スマートタウン」への宿泊施設など多様な形態の民間企業の積極的な誘致

### <過去2年間の本市全体の企業誘致実績>

- ・令和5年度は、過去最高となる6件の立地協定を締結し、投資予定額の合計は約103億円、新規雇用予定者数の合計は105名
- ・令和6年度は、本市初となる外資系企業(台湾／半導体関連)と立地協定を締結

## (2) 地元就職の促進

- 若者の地元就職に向けた企業視察ツアーや「企業と学校の意見交換会」の開催
- 市内中小企業に就職する若者の奨学金返済を補助(R1～)

## (3) 農水産業の振興

- 「荒尾かき」の養殖体制・品質の向上に向けた遠隔指導・支援アプリ導入等(補正予算予定)
- 「道の駅」開業を見据えた種子・苗や農業用機械等購入への助成
- 荒尾梨「ことのみ」のブランド確立・販路拡大の支援(R4～)



# 重点戦略4. あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる

## (1) 観光資源の魅力向上

凡例 ●:新規 ●:拡充 ●:継続

- 万田坑世界文化遺産登録10周年記念事業
  - 万田坑で保存公開する「炭鉱電車」2両の定期走行(R6~)
  - 荒尾干潟・水鳥湿地センターでのサンセットカフェやテラー乗車等の体験プログラム
  - 万田坑や荒尾干潟での「デジタル掛軸」の開催
- ※「環有明海観光連合」との連携など、有明海沿岸地域とのネットワーク強化を図る。

## (2) 自治体オリジナルメディアの強化

- 地域活性化起業人・地域おこし協力隊の協働による市公式メディア「ぎゃんすき！あらおちゃん」を活用した各種SNSでの情報発信や交流人口拡大を図るイベント等の開催

## (3) 移住・定住の促進

- 移住・定住コーディネーターによるサポート
- 移住検討者のニーズに応じた「オーダーメイド型移住体験ツアー」の実施
- 子育て世帯の住宅取得を伴う移住への助成



# 重点戦略5. 先進的で持続可能なまちをつくる

## (1) インフラの強化と計画的な更新

凡例 ●:新規 ●:拡充 ●:継続

- 保健・福祉・子育て支援施設開業を見据えた、市役所・市民サービスセンター等をつなぐ**遠隔窓ロシステム**の導入(R7)
- 老朽化した市民体育館の屋根修繕を実施(R7.5月終了予定)
- あらおうウォーターサービス(株)と連携した水道インフラの計画的な更新

## (2) 道路整備関係

- 地域高規格道路「**有明海沿岸道路**」整備に関する協力等  
【参考:国のR7当初予算】  
①三池港IC連絡路35.4億円(整備中)・②荒尾道路1.5億円(地盤調査、測量・設計)  
※「長洲町～玉名市」区間については事業化に向けた「計画段階評価」のステージ
- 熊本県・長洲町と共同で行う「野原赤田線」の整備

## (3) 自然災害・犯罪への対応

- 市内北西部における**内水氾濫対策事業** ※雨水排水のための大口径バイパス管の埋設等
- 地域防災リーダーの育成や地区防災計画策定の支援
- 防犯カメラの更新や地域におけるLED防犯灯設置費用の助成



# 市民の幸せをつくるための 行政経営理念

## 『現場主義の徹底』と『市役所イノベーション』

「職員の意識と行動の改革」「議論する職場の改革」「産学官連携による経営の改革」

### 市民サービスの向上・業務効率化

- 市民課等で「**書かない窓口**」とキャッシュレス導入
- 会計課業務の一部委託(R6~)
- 市営住宅の空室が多いため「**建て替えない宣言**」→老朽木造住宅から鉄筋コンクリート低層階に転居を奨励
- 43公共施設の維持管理や小修繕、市営住宅管理運営を**総合管理委託**(R5~)
- 市民課等でマイナンバーカードを活用した印鑑証明等を発行(R6~)
- 行政手続で押印を9割廃止(R3~)
- 税金等のコンビニやスマホ納付(R3~)
- お悔み手続きを簡素化(R2~)
- 公式LINEのサービス拡充

### 財源の確保・経費節減

- ふるさと納税 **約7.2億円**(R6) ※前年度+0.7億円
- 企業版ふるさと納税累計 約8,995万円(R3~R6)
- 子ども未来基金累計 約6,166万円(H29~R6)
- 旧五中校舎へカフェの入店など公共施設の有効活用
- 図書館をシティモール内に官民連携で整備  
→整備費が6億円と通常半額、20年間の維持管理コストが4割に縮減
- 長洲町と給食センターを共同整備  
→補助が通常より5億円増、単独に比べ維持管理費を年間1,500万円節減

### 人材の育成

- **女性シンクタンク**を設置、各種計画等に意見を反映
- 12地区に**地区担当職員**を配置(36名)
- がんばる職員を表彰する「**市長賞**」創設(R2~)

※今年度、「第7次荒尾市総合計画」と「第6次荒尾市行政改革大綱」を策定予定。  
少子高齢化や社会保障費増大など、地方自治体を取り巻く環境が厳しい中、  
**攻めと守りのメリハリのある財政を徹底し、持続可能な市政運営を図っていく。**

女性が活躍し、子育てしたいと思えるまちで  
子どもたちが郷土を愛し、夢や希望を持ち、  
市民の皆さんが荒尾に住んで良かったと  
幸せを実感できる

「暮らしたいまち 日本一」

に向け、新しい荒尾をともに創っていきましょう！